

金曜日の会報告

- 1 期日 9月6日
- 2 場所 倉敷労働会館
- 3 参加者 O,CH,AR,AK,TA,YO
- 4 内容

『ぼくは川』映像(AK)

『雀の子』解釈(YO)

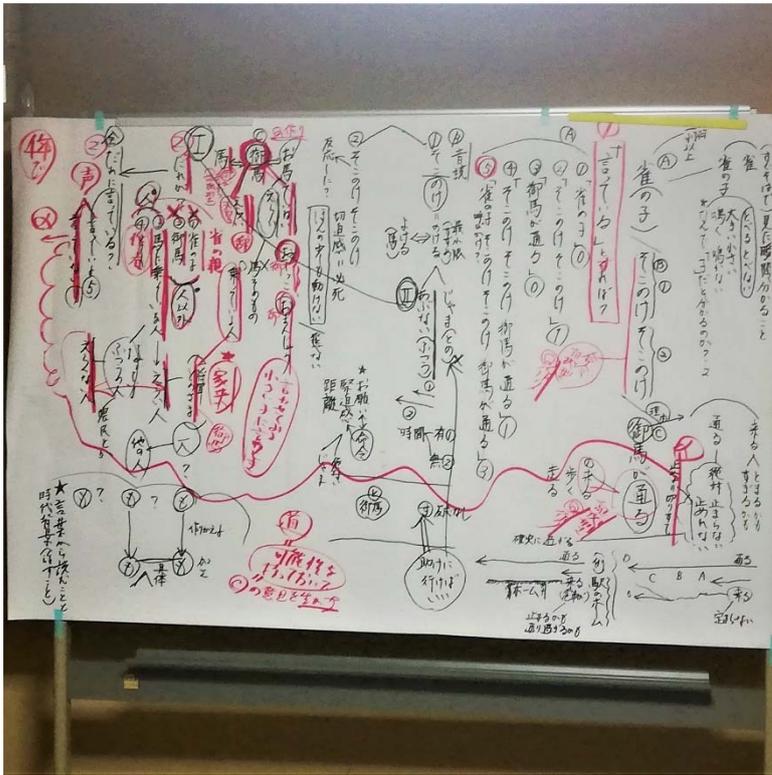
『側転』映像(YO)

2学期が、始まりました。まだまだとても蒸し暑い日が続いていますが、みなさん身体を大切にして元気にやっていきましょう。

『ぼくは川』の授業と解釈について語る AK 先生からは、ものすごい熱意が感じられました。教材をていねいに解釈し、子どもの事実をもとに授業を振り返っていく姿勢に刺激を受けました。

映像から見えてきたことは、『川か、川じゃないか?』といういきなり漠然とした大きな問いを投げかけたことで、子どもたちが混乱したことです。最初の問題が、文中の言葉からスタートしないといけません。例えば、『くねるとうねるは、一緒か違うか?』『(子どもの辞書の意味を使って)ほとぼしるとあふれ出るは同じか違うか?』子どもに支持確認をとり、相談もさせながらイメージの違いに気付かせていく。同様に、教師の解釈にも、常にイメージが結び付くことが大切だと分かりました。

『雀の子』では、先日一日研の板書をもう一度書き出して、内容を整理してみました。改めて、自分が分かっていないことに気付かされました。問題の意味とそのていねいな扱い方も、やはりイメージを持たせることが関係します。また、『声に出して言っているのか、言っていないのか?』という問題と『通ると来るの違いは?』という問題が関係していることが分かりました。そして、何よりも、教師都合に展開するのではなく(展開の道筋の可能性は持っておきながら)、あくまで子どもの意見を生かす姿勢をもちたいと思いました。まだまだ、勉強です。



側転の映像では、教師が複数のことを要求していることが問題でした。要求は一つ、そしてその変化をうんと誉めて、子どもの自主的な探求の学びにしていくこと、私の陥りがちな

所を指摘していただきました。また、スイングをして前足をもっと上げることで腰を高くする(伸ばす)ことや目線も高くしておくことも重要です。

みなさんのお話を伺いながら、学びの多い時間を過ごさせていただきました。文責 YO